

については、XIV－1（漢方処方製剤）を参照して作成のこと。

(a) 牛車腎気丸

疲れやすく、四肢が冷えやすく、尿量減少又は多尿で、ときに口渴がある人における、下肢痛、腰痛、しびれ、老人のかすみ目、^{かゆ}痒み、排尿困難、頻尿、むくみの症状に適すとされているが、胃腸が弱く下痢しやすい人、のぼせが強く赤ら顔で体力の充実している人では、胃部不快感、腹痛、のぼせ、^き動悸等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。また、4歳未満の小児には適用がない。

まれに重篤な副作用として、肝機能障害、間質性肺炎を生じることが知られている。

(b) 八味地黄丸

疲れやすく、四肢が冷えやすく、尿量減少又は多尿で、ときに口渴がある人における、下肢痛、腰痛、しびれ、老人のかすみ目、^{かゆ}痒み、排尿困難、頻尿、むくみの症状に適すとされているが、胃腸の弱い人、下痢しやすい人では使用を避ける必要があり、また、のぼせが強く赤ら顔で体力の充実している人では、のぼせ、^き動悸等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

(c) 六味丸

疲れやすく、尿量減少又は多尿で、ときに口渴がある人における、排尿困難、頻尿、むくみ、痒みの症状に適すとされているが、胃腸が弱く下痢しやすい人では、胃部不快感や腹痛等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

(d) 猪苓湯

尿量が減少し、尿が出にくく、排尿痛あるいは残尿感がある人に適すとされている。

(e) 竜胆瀉肝湯

比較的体力があり、下腹部の筋肉が緊張する傾向がある人における、排尿痛、残尿感、尿の濁り、こしけ（おりもの）の症状に適すとされているが、胃腸が弱く下痢しやすい人では、胃部不快感等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

構成生薬としてカンゾウを含む。カンゾウを含む医薬品に共通する留意点に関する出題については、II－1（^{せき}咳止め・^{たん}痰を出しやすくする薬）を参照して作成のこと。

2) 相互作用、受診勧奨等

【相互作用】 生薬製剤又は漢方処方製剤を使用する際に留意されるべき相互作用に関する一般的な事項について、XIV（漢方処方製剤・生薬製剤）を参照して問題作成のこと。

【受診勧奨等】 残尿感や尿量減少は一時的な体調不良等によるもののほか、泌尿器系の疾患における自覚症状としても現れる。例えば、^{ぼうこう}膀胱炎や前立腺肥大などによっても、これらの症状が起こりうることから、このような場合、一般用医薬品によって対処することは適当でない。

したがって、医薬品の販売等に従事する専門家においては、購入者等に対して、これらの一般用医薬品の使用は一時的なものに止め、症状が継続するようであれば医療機関を受診するよう促していくことが重要である。

DRAFT